

				部会名	しごと部会
施策No.	1-3-2	施策名	商店街の再生	施策主管課	商工労政課
■内部評価について					
①成果指標について	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標の項目は施策の目指す姿に沿っているか。 →不足している、という評価になった。 ・目標値の設定は適切か。 →妥当であると評価した。 ・他に考えられる指標はないか。 →イベント来場者数(事務事業の成果指標の一つとして設定されている)、自動車の乗入数が挙げられた。 ・成果指標の達成状況についての確な分析を行っているか。 →a、bのいずれについても、一般的な分析で、四地域(花巻、大迫、石鳥谷、東和)毎の要因分析が不足していること、商店街の能動性に対する分析が不足していることが指摘された。なお、達成度Cの評価について、厳しすぎるのではないかという意見もあった。 				
②施策を構成する事務事業について	<ul style="list-style-type: none"> ・施策を構成する事務事業は相対的に必要十分で過不足のないものになっているか。 →妥当である、という評価になった。 ・目指す姿の実現に貢献している事業か。 →概ね妥当であると判断したが、いくつかの事務事業(番号1-2、1-3)の評価Bは過小評価ではないか、という意見もあった。 ・市民ニーズや社会情勢の変化により、市の関与の必要性が低下した事業はないか。 →特になし。 ・施策の目指す姿を実現するために、さらに成果の向上を図る事業はないか。 →事務事業番号3-1及び3-2の「商店街景観形成事業」は四地域の商店街の独自性・特徴を際立たせるためにも一層向上を図ってほしい事業として挙げられた。 ・他に考えられる事業はないか。 →リノベーションに関する事業が必要と考えられる。 				
③施策の総合的な評価	<ul style="list-style-type: none"> ・施策の主な取り組み成果や成果指標の推移、施策を構成する事務事業の検証等を踏まえ、施策の目指す姿を実現するための問題点・課題が明確になっているか。 →課題、方向性のいずれについても、一般的な評価で、四地域の商店街毎の要因分析が不十分であることが指摘された。加えて、本施策は、商店街のあるべき姿について、現状維持の施策に過ぎず、現状の改革のプラン(他部局で検討されているようであるが、都市づくりプラン、コンパクトシティ構想)と連携させるべきではないか、街なかの拠点と商店街との連携を模索するべきではないか、という指摘があった。さらに、本施策の方向性について、家賃補助に関する事業の転換がヒアリングの際に述べられていたが、その点の指摘がなかったこと、4地域の商店街の能動性に対する評価が不足していることが指摘された。 				
④シート記載内容について	<ul style="list-style-type: none"> ・施策の取り組み実績や、事業内容等、わかりやすい記載内容となっているか。 →特になし。 				